

会議録

1. 会議名	平成27年度 第1回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	平成27年9月14日（月）10:00～12:00
3. 開催場所	出雲市役所本庁 3階 庁議室
4. 出席者	<p><委員></p> <p>肥後功一委員（会長）、原 広治委員、小村吉一委員、神門 至委員、石川慎也委員、持田耕平委員、村田 實委員、高橋良介委員、布野和弘委員、廣戸悦子委員、高橋悦子委員、原 成充委員、西 郁郎委員、吾郷弘司委員</p> <p>（順不同）</p> <p>（欠席：齋藤茂子委員（副会長）、柳樂智史委員、羽根田紀幸委員、糸原直彦委員、堀江正俊委員、山岡清志委員、）</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、子育て調整監、子ども政策課長、保育幼稚園課長、福祉推進課長、健康増進課長、市民活動支援課青少年育成室長、学校教育課主査、児童生徒支援課長 ほか</p>
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 子ども・子育て支援に関する取組状況について</p> <p>(2) 平成28年度の認可保育所・認定こども園の定員について</p> <p>(3) 認可外保育所の今後について</p> <p>(4) 市立幼稚園における預かり保育事業について</p> <p>(5) その他</p> <p>4 閉会</p>
6. 議事要旨	以下のとおり
健康福祉部長	<p>1 開会</p> <p>（健康福祉部長あいさつ）</p> <p>本年4月から子ども・子育て支援新制度がスタートし、現在のところ大きな混乱もなく半年が過ぎた。</p> <p>国においても来年度予算の概算要求が行われており、「保育所等の待機児童対策」に906億円、「子どもの貧困対策とひとり親家庭対策の推進」に223億円を計上すると厚生労働省から発表された。今後、年末に向かい本格的な来年度予算へのいろいろな動きがあろうかと思うが、市としても国の動きを注視していきたい。</p>

<p>事務局（子ども政策課）</p>	<p>前回の本年1月の子ども・子育て会議以降の市の動きとしては、まず、一つには3月末をもって市立幼稚園3園が閉園した。日御碕・鶴鷺幼稚園は園児数の減少に伴って閉園し、多伎幼稚園は、民間譲渡して「たき保育園」と一緒に「認定こども園多伎こども園」となり、4月から新たなスタートを切った。この結果、市内の幼稚園は27園、認定こども園3園、認可保育所51園、認可外保育所3園となった。</p> <p>また、市の組織では、子育て支援課が子ども政策課と保育幼稚園課の2課に分かれ、学校教育課が学校教育課と児童生徒支援課の2課に分かれた。</p> <p>本日の会議では、子ども・子育て支援に関する取組のうち、今年度からの新規事業や充実事業について報告させていただくとともに、来年度の認可保育所の定員拡充等について、意見をいただきたい。</p> <p>本年3月に策定した「いきいきこどもプラン～出雲市子ども・子育て支援事業計画～」の着実な推進のため、委員の皆様方のご協力を願う。</p> <p>前回の会議以降、市議会選出委員、出雲市認可保育所（園）保護者会連合会会長、出雲市幼稚園PTA連合会会長、出雲市PTA連合会会長、出雲商工会議所専務理事の交代に伴う委員変更があったことを報告する。</p> <p>現在、委員20名中13名の出席で定足数を満たしている。本会議は公開で進める。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>2 あいさつ</p> <p>この会議は2年前に始まったということで、今回が現委員の任期中では最後の会議になると思う。25年10月10日に第1回の会議が行われ、3つの部会での検討もしてきた。今年1月の終わりに開いた会議までの6回の子ども・子育て会議を通して「いきいきこどもプラン」を完成させ、また市ではその普及版としてお手元の「出雲いきいきこどもハンドブック」を作るなど、取組を進めてきたということになる。</p> <p>本日は、4月からの取組状況、特に新しい事業等について説明いただく。また、さっそく様々な課題も生じてきているので、それについても検討の方向性を示していただく。</p> <p>残念ながら委員の任期は2年であるので、本日検討いただくことについては、次期会議での検討課題をあげていただくような形になるかと思う。「仏を作って～」というような言葉があるが、大きな仏に魂を入れるのはここからである。</p> <p>各地で様々な魂の入れ方が行われている。山口市では「すくすくこどもプラン」という冊子をまとめ、公立・私立の幼稚園・保育所全てが、小学校に入学するまでの教育・保育のプランを統一して持つという形で、生まれてから就学までの全体的な見取り図を幼稚園と保育所が共有するという取組をしている。互いにこういう図式を共有するというような試みが各地で行われている。</p>

	<p>折しも、県の教育の大きな課題として、学力低下ということがあり、子どもたちが将来に向かって学んでいく力をどう保障するかということに、乳幼児期が重要な意味を持っている。そこに向かってどういう手だてをしていくかというのは、大きく市の命運を左右する課題といっても良い。</p> <p>限られた時間であるが、いきいきこどもプランについて、次期の課題について意見をいただきたいと考える。</p>
健康増進課	<p>3 議事</p> <p>(1) 子ども・子育て支援に関する取組状況について</p> <p>【資料1の説明】</p> <p>○不育症治療費助成事業の実施（新規）</p> <p>27年度から、妊娠後に2回以上の流産・死産の既往があり、産婦人科において不育症の治療を受けている妊婦に対し、不育症治療費の自己負担分を1回の妊娠につき上限10万円を助成している。</p> <p>○一般不妊治療費助成事業の充実（充実）</p> <p>22年度から実施している一般不妊治療費の自己負担分の助成について、1期1年間上限3万円の助成額を、27年度からは上限5万円に増額した。</p> <p>○親子のきずなはぐくみ事業の実施（新規）</p> <p>妊娠・出産・子育てと切れ目のない支援をめざし、27年度から親子のきずなはぐくみ事業を実施している。妊娠期の親の心の安定、乳幼児期における愛着形成、思春期における性、命の尊さを理解する学習など、教室・講座・学習支援などをライフサイクルに沿って推進していきたいと考える。</p>
保育幼稚園課	<p>○合同研修の実施（新規）</p> <p>今年度から公開保育型研修として公立保育所・幼稚園で実施する公開保育に保育所・幼稚園職員が参加し、自園での保育・教育活動の充実につなげていく。保育所・幼稚園各2か所で実施する予定である。</p> <p>また、保育の実践発表や講演などによる合同研修会を実施し、保育所・幼稚園職員の資質向上を図る。互いに良い点を吸収しあうという形になるよう、28年2月21日（日）に開催予定である。</p>
学校教育課	<p>○保幼小連携の推進（充実）</p> <p>昨年4月に出雲市保幼小連携推進基本計画を策定しており、この概要を掲載した</p>

<p>保育幼稚園課</p>	<p>啓発リーフレットを作成し、保幼小の全保護者や地域学校運営理事会の理事等に配布し、啓発を図っている。</p> <p>また、市内を4ブロックに分け、それぞれで合同研修会を実施し、保幼小連携の必要性や効果的な連携の進め方等について研修を深めた。</p> <p>さらに、26年度から実施している保幼小交流の日を、今年度は全市一斉で10月20日（火）に実施する。これは、園児が小学校への期待を膨らませ、保護者はその様子を見て不安の解消を図るということを目的として実施するものである。</p> <p>○市立今市幼稚園の特別支援教育拠点園化（新規）</p> <p>インクルーシブ教育を実践するために、27年度から市立今市幼稚園を特別支援教育の拠点園とした。障がいの有無にかかわらず、全ての子どもが同じように保育・教育を受けられるようにするとともに、預かり保育事業を実施して保護者の就労等の支援も行っている。</p> <p>○市立多伎幼稚園の認定こども園化（新規）</p> <p>市立多伎幼稚園を社会福祉法人多伎の郷へ譲渡し、幼保連携型認定こども園「多伎こども園」が開園した。</p>
<p>健康増進課</p>	<p>○発達支援教室の充実（新規）</p> <p>現在、1歳6か月児健診において発達等に少し支援が必要と思われる子どもを対象とした発達支援教室を実施しているが、3歳児健診の後にも親子を支える場が必要と考えている。今年度、今市幼稚園の協力により、発達が少し気になる3歳くらいの子どもの対象に、主に幼稚園入園に向けた繋ぎを目的として試行的に実施している。</p> <p>○年中児発達相談事業の充実（充実）</p> <p>3歳児健診後から就学までの間において、発達等が気になる子どもに気づき、早期から支援していくために、アンケートを用いて子どもの成長・発達や保護者の育児不安などを把握し、支援が必要な子どもや保護者には、所属の園と保健師や心理士等で対応している。現在7つの園の協力を得ながら実施しているが、対象園の拡大に向けて今後検討していく。</p>
<p>児童生徒支援課</p>	<p>○就学相談にかかる保幼小の連携強化（充実）</p> <p>就学相談の申し込みがあり保護者の同意が得られた場合に、園から就学予定の小学校へその情報を伝え、小学校では就学後の支援体制を早期に整備していくという取組である。</p>

市民活動支援課	<p>○放課後児童クラブ事業の充実（充実）</p> <p>児童福祉法が改正され、今年度から児童クラブの対象学年を小学校 6 年生までに拡大した。入会児童数は 4 月時点で 1,821 人、昨年に比べ 162 人の増加となっている。うち 4～6 年生は前年比 30 人増の 151 人となった。わずか 30 人の増にとどまっているのは、従来から、4 年生以上についても入会要件を満たし、児童クラブで受け入れ可能な場合は、受け入れる制度としていたためである。</p> <p>○放課後児童クラブの施設整備（新規）</p> <p>入会児童が増加していく中、待機児童の解消、面積基準を確保するために、昨年度は荘原小児童クラブを増築しており、今年度は長浜児童クラブを増築する予定である。</p>
子ども政策課	<p>○出雲いきいきこどもハンドブックの配布（新規）</p> <p>「いきいきこどもプラン」の概要と、市における子ども・子育て支援の取組を紹介するハンドブックを保育所、幼稚園、認定こども園など、広く保護者に配布した。作成部数は 1 万 6 千部、うち 1 万 3 千部を既に配布した。また、ハンドブック配布にあわせ、今後の市の子ども・子育て支援を進めていくうえでの参考とするため、アンケート調査も実施している。現在のところアンケートの回収数が少ないので、保育所長会・幼稚園長会などを通じ、アンケート記入を依頼することとしている。</p>
肥後功一会長	<p>今年度、現在までのところで進んできている新規の取組や充実の取組の説明であった。この件についての質問、あるいはここにはないが、プランに書かれている施策の進捗等について質問があるか。</p>
小村吉一委員	<p>「5. 保幼小連携の推進」に関連し、小 1 プロブレムの実態はどの程度、どのような形であるのか。</p> <p>「12. 放課後児童クラブの施設整備」に関連し、設備等の基準条例（出雲市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例）が制定されたが、広さ、静養コーナーなどの点で条例に合わない所も多々あった。児童クラブ施設の充実・改修・整備については、どのように考えているか。</p> <p>「いきいきこどもプラン」は 18 歳までが対象であるが、中学校を卒業した後の子どもには、今までどのような支援がされてきたのか。</p>
肥後功一会長	<p>教育委員会では小 1 プロブレムの問題をどのように把握しているのか。</p>

学校教育課	具体的な数字については、調査を行っていない。
肥後功一会長	小 1 プロブレムに該当するような状況が、市内の学校で起きているのか、起きていないのか。学校教育現場でそういう問題があれば教育委員会へ報告があると思うが、今年度 1 学期の状況はどうか。
学校教育課	今年度、小学校 1 年生に関しての報告はない。
肥後功一会長	質問 2 点目の放課後児童クラブについては、必ずしも設備の現状が望ましい所ばかりではないとの指摘であった。順次改修が必要であったり、人数の拡大に応じて整備が必要になると思うが、その点について市で計画を持っているのか。
市民活動支援課	具体的に、来年度以降どここのクラブをどうするという計画は、現在、発表できるものはないが、待機児童が発生しているクラブがいくつかあり、また、1 人あたりの基準面積を満たしていないクラブも数クラブあるので、そういうクラブをなるべく早く解消するという方向で、今後の市の財政計画との整合を図りながら考えていきたい。
肥後功一会長	3 点目の質問の趣旨は、中学校卒業後の子どもの状況について、それぞれ適応的な場所に通っているのか、それとも、うまくいわずに家にいるとか、そういう福祉的な状況に対応が必要ではないかという指摘であると思う。中学校卒業後の進路状況等について、適応状況を把握しているようなデータがあるか。
子ども政策課	質問の点については手元に資料を持ち合わせていない。 「いきいきこどもプラン」の趣旨であるが、このプランは子ども・子育て支援法に基づく行政計画である。法律の中に、記載すべき項目、記載に努める項目が定められており、それに従って構築しているため、義務教育までの年代への支援が中心となっている。また、次世代育成支援対策推進法に基づく計画も引き継いでいるので、一部、18 歳までのところ、義務教育終了後の部分についても記載はある。ただ、十分な内容であるかという点については、いろいろな議論があると思う。本市の子どもの育ちについては、例えば出雲市子ども・若者ビジョンなどの他の計画も備えているので、それらの計画で重層的に支える仕組みとなっている。
肥後功一会長	子どもの施策については、いろいろなところで、いろいろな形でネットワークを

	<p>築いているはずだが、指摘のように、どこかが抜け落ちているようなことがあって大きな問題になったり、そこに救いの手がなかったり、セーフティネットが抜けていたりということがあるといけない。ぜひ、そのあたりの施策を市役所各課でつきあわせて検討していただきたい。もし、指摘のようなことがあるのであれば、どこかに必要な項目を入れていくという形にしていくようになると思う。</p>
高橋悦子委員	<p>「3. 親子のきずなはぐくみ事業」に関連して発言する。この事業の名称はとても素敵だと思った。小さい頃から子どもは大切な存在だよということを語り続け、親にも子どもは大切な存在で、子ども自身にもあなたは大事な存在だよというように、それを積み重ねる機会がたくさんあって、子どもには順調に成長してほしいと考える。はぐくみ事業の中でいろいろな講座があるが、具体的にどのような講座なのか。また、乳幼児期に母親の子育て講座はあるが、父親向けの講座についてはどうか。</p>
健康増進課	<p>妊娠期のあかちゃんのお世話教室については、島根県助産師会出雲支部と共催で、これから赤ちゃんが生まれる父親・母親に対して沐浴実習や育児実習等を行っている。また、父親・母親の健康についても話をしている。</p> <p>乳幼児期のブックスタートについては、これまでも実施してきたが、さらに力を入れていくことにしている。4か月健診時に赤ちゃんに絵本を読んで見せるという実践の中で赤ちゃんの反応を母親に見てもらい、家でも親子のふれあいをしていただくために、絵本をプレゼントしている。</p> <p>はじめての子育て講座については、第1子の子育て不安解消を目的として、今年度から新規に取り組む。年間3回1クールで、第1子の子どもと母親の参加により、10月からスタートする予定である。乳児期であるので4か月健診や乳児訪問の際に保健師から薦め、1回10組で、臨床心理士や地域の子育てサポーターの協力を得て進めていく。</p> <p>幼児期のにこっとティータイムについては、健診時に、13項目のストレス項目を聞いているが、その中で3つ以上のストレス項目がある方に声掛けをするとともに、健診会場での希望により対象者を決め、心理士と保健師により4回シリーズで実施している。</p> <p>思春期については、性・命の尊さ・防煙について、学習支援ということで各学校・保育所・幼稚園へ講師派遣している。</p> <p>父親に限定した講座は、現在のところ開設していない。</p> <p>今日は、新制度が始まってから6か月ということで、説明があった内容は実績値</p>
肥後功一会長	

	<p>ではない。全体を通じて言えることだが、今後、この会議で確認していかなければならないのは、「どういうことについて予算化した」、その予算の実行実績が、「例えば参加者が何人であった」、それから、効果検証のため「参加された方からは、こういう意見があった」というようなデータを出していただき、それを検証していく形にしなければいけない。本日は、細かい項目はあげていないということだ。</p> <p>このプランの全体にわたって予算と予算の実行実績と、成果・数字をあげて検証するということになると、大変な作業になると思う。ただ、この会議でやらないといけないことは、そういうことであり、効果の上がっている事業と効果の上がっていない事業とを見極めながら、必要な事業を展開するよう意見を言うことである。事務局は、実質的な実績データを集積しながら、わかりやすい形で示していただきたい。</p>
吾郷弘司委員	<p>多伎幼稚園が認定こども園化されたが、大きな期待と不安を抱えての発足ではなかったかと思う。発足後半年経つが、現在の成果と課題をどのように捉えているか。</p> <p>次に児童クラブのことで、これは意見として聞いていただければ良いが、児童クラブは各地域の運営委員会に委託されての事業であるが、委託事業であるからには各児童クラブ間で、運営の特色があつて然るべきだと思う。</p> <p>現在、捉えている課題としては、児童に関わる、保護者のこともあるが、価値観がずい分変わってきていて、それに対する対応のあり方、それに加え4～6年生を受け入れることによって、各児童クラブの抱えている課題、困難点がかなり増幅している。</p> <p>もう1つ大きな課題として浮かび上がってきているのは、今に限ったことではないが、いわゆる指導員、今年度から支援員と名前が変わったが、支援員あるいは補助員の確保の問題、待遇の問題、資質向上の問題という大きな課題がある。</p> <p>もう1つの課題は、立派な施設がある一方で、十分でない施設もあるわけで、これを何とかしないといけないということだ。</p> <p>児童の問題、指導者の問題、施設の問題、これらが大きな課題として、のっぴきならない状況に至っている。運営委員長会でも、こういうことについて協議し、行政とも話し合っているが、市の条例という大きな枠の中で動いていくことの難しさ、困難性も感じている。</p>
肥後功一会長	<p>児童クラブの今後について考えていかないといけない課題を網羅し、体系的に話していただいた。</p> <p>昨日、児童クラブの指導員の研修会を行った。子どもをめぐるいろいろな問題を抱えながら、皆苦しみながらやっているという状況の中で、今後、指導者の資質向</p>

保育幼稚園課	<p>上も含めて、あるいは対応の問題も含めて考えないといけない課題が山積している。多伎こども園の質問についてどうか。</p> <p>多伎こども園については、8月時点で幼稚園部が15人、保育所部が90人、合計105人の在籍で、4月の新規入所は幼稚園部が5人、保育所部が20人の入園であった。成果は1年間を通じてとなるので、現時点では推測であるが、現在、多伎こども園の中で生活している児童については、以前は幼稚園、保育所に別れての幼児教育や保育所生活で交流の機会が少なかったが、一緒に施設の中で生活するということが同年齢はもちろんのこと、異年齢間の交流も深まってきていると思う。また、5歳児が小学校へ入学する際のスムーズな繋ぎという意味でも、良い方向に向かっていていると感じている。課題としては、多伎地域の子どもが多伎こども園に通っている状況であり、現在は105人という集団生活であるが、地域の少子化ということで、将来どのようになるのか、不安要素があげられる。</p>
肥後功一会長	<p>多伎こども園は1号認定、2号認定、3号認定の全ての子どもが在籍しているのか。</p>
保育幼稚園課	<p>全ての認定区分の子どもが在籍している。</p>
肥後功一会長	<p>今後、1号で入った児童が2号に移行するというようなことも出てくると思われる。</p>
神門 至委員	<p>「13. 出雲いきいきこどもハンドブックの配布」について、情報提供は極めて必要なことであると考えます。アンケートの実施については、市民の声をどのようにまとめていくスケジュールか。自分の経験でもなかなかアンケートは集まらないものだが、どのようにアンケートを集めるのか。回収率が20%、30%では効を奏しないと思う。具体的に、どのようなスケジュールの中でアンケートを整理するのか。</p>
肥後功一会長	<p>市民の意見をどのように施策に反映していくかということについての意見であった。アンケートについてはどのようなスケジュールか。</p>
子ども政策課	<p>アンケートは、保護者の率直な意見を聞くものとして重要視している。そのため、なるべく多くの方に協力してほしいということでハンドブックにあわせて配布している。締切は本年12月31日としており、年度内に結果をまとめて報告したい。子育て中の保護者はアンケートをゆっくり記載している暇がないということもあると思うが、声をあげていただくことは大切であると考えている。保護者の意見を集めるのに有効な方法が他にあまりないので、今後、さらに保育所長会、幼稚園長会を</p>

	通じて提出を呼びかけていきたい。
肥後功一会長	例えば、何か有効な方法をお考えか。
神門 至委員	保育所の理事をしているが、保育所側で回収率 80%まで集まったら回収してまとめて提出するとか、それぞれの団体の中で、努力をすることも必要ではないか。保護者にも書く時間がないということもあるだろう、保育所や幼稚園も大変であるだろうが、出してくださいという、さらなる努力を引き続きしていただければ、回収率も上がるのではないか。
肥後功一会長	本日、委員として PTA からの出席もあるが、アンケートの分量や答えやすさなど、意見等あるか。
石川慎也委員	子育てをしている保護者の立場からすると、改善してほしいことや希望・要望などを言いたい保護者は多い。団体の中でもアンケートを行うが、それなりの回収率は得られているので、アンケート自体を周知する機会があれば、協力いただけると思う。
持田耕平委員	アンケートの周知の仕方によって集まってくるのではないか。用紙を配布するだけではなかなか集まらない。協力はしていきたい。
布野和弘委員	<p>「4. 合同研修の実施」について、水と油とまでは言わないが、保育所の保育士と幼稚園の教諭が合同の研修をして、果たして素晴らしい実践発表や研修の質向上に繋がるのか。</p> <p>「5. 保幼小連携の推進」は良いことだと思っており、これからも子ども同士、保護者同士、先生同士でいろいろな情報交換をやっていかないといけない中で、いろいろな研修があると思うが、ブロック研修のようにこんなに大きな研修で成果があるのか、また、保護者にも来てほしいという全市一斉の交流日であるが、平日に多くの方が参加できるのか。参加しやすいように、市のこれからの保育と教育というところで PR し、ぜひとも保護者に参加いただきたいというような、子どもたちに夢を持たせるようなものがないと、いつもの参観日の一環だろうという形ではどうなのかと思う。</p> <p>「10. 就学相談にかかる保幼小の連携強化」では保護者の同意を得られた場合に情報提供するとされているが、保護者の同意がない子どもに関してはどのように対応するのか。</p>

肥後功一会長	1 点目の保育所・幼稚園の合同研修は効果がいかなものかという意見であったが、必要性についてはどう考えるか。
布野和弘委員	必要性はあると思う。というのは、システムが違う分、幼稚園に足りない部分が保育所にあり、保育所に足りない部分が幼稚園にあると思う。相互作用で良い所は取り入れてもらいたい、交流は良いと思うが、今後の幼稚園の方向性が明確でなく、幼稚園が今後どうなっていくのかということを考えると、効果がいかなものか。児童や幼稚園数が少なくなってきており、地域の宝としての幼稚園を全くなくすということは反対で、年齢分けをするとか、そのあたりの方向性を見出して、出雲市の保育・教育はこういうプログラムで小学校へ繋ぐというように、希望を持てる出雲市らしい教育の場を作っていただきたい。
肥後功一会長	1 点目については、必要性はあるとの考えであるので、今後、実施してどうであったという報告があればよい。 2 点目については、ブロック研修の規模がどうかということで、研修をやるのに実質があるのかという指摘、保幼小の交流の日も含め、説明願う。
学校教育課	ブロック研修を行うきっかけとなったのは、保育所・幼稚園・小学校の連携の必要性について、十分に理解されてなく、連携の意識を高めていこうという保幼小の代表者の話し合いからである。質的な高まりをめざしていかなければならないので、内容について今後考えていきたい。
肥後功一会長	行政では必要性がどこにあって、それをどうわかっていただきたいと考えているか。
学校教育課	教育委員会と市の担当部局では保幼小連携をずい分前から進めているが、なぜ今、保幼小連携が必要なのかということが十分に浸透していないという実態がある。
肥後功一会長	担当部局では保幼小連携がなぜ必要と考えているのか。
学校教育課	保幼小連携の必要性は 2 つあり、1 つは保育所・幼稚園から小学校への円滑な接続を図るということ、もう 1 つは保育所・幼稚園・小学校それぞれの保育や教育の質を高めていくことと考えている。

肥後功一会長	<p>進める部局が本当に行政的な意味で必要性を分かっている、それをこういうことのために、ぜひやってくれと言うかどうかが大重要。そうでなければ、おそらく必要性は伝わらない。</p> <p>先ほど小 1 プロブレムの指摘があったが、それぞれ保育所でもがんばり、幼稚園でもがんばりと、それぞれが接続を考えれば良いのではないかとすることも当然成り立つ。なぜ連携しないといけないのかという説明になっていない。そのあたりをどう考えていくか。</p> <p>関連して全市一斉の保幼小交流の日について説明願う。</p>
学校教育課	<p>今までも交流活動はあったが、全市一斉の交流の日の特徴として、就学予定先の小学校に子どもと保護者が一緒に行くということがある。以前アンケートをとったところ、保護者にとっては、就学先で子どもがみんなとうまくやっていけるのか不安があるという結果であった。そこで、近隣の保育所・幼稚園・小学校の交流ではなく、就学予定先の小学校へ実際に行き、はじめて出会う友達と交流活動をする様子を保護者が見て、これなら大丈夫とか、逆にもう少し考えていかなければいけないとか、安心したり、あるいは考えてもらう場にしようということで、それを全市一斉に行うこととなった。これにより保幼小連携のことを理解いただくことと実施するものである。</p>
肥後功一会長	<p>全市一斉にやるということが一定のアピールになっている。この取組は一斉では初めてだが、一斉でないのは今までも実施していたのか。</p>
学校教育課	<p>昨年度も同じような考えで実施したが、実施する日にちが小学校により異なっていた。一斉実施は今年度が初めてである。</p>
肥後功一会長	<p>その時の実施成果はどうであったか。普通に考えれば平日であるので幼稚園の保護者はたくさん参加するだろうが、保育所の保護者は参加する機会が少ない可能性があるが。</p>
学校教育課	<p>昨年度は約 9 割の親子が参加している。全ての保護者にアンケートをとったわけではないが、感想によると、「楽しそうに小学校の子どもと交流する姿を見て安心した」とか、「先生たちに配慮をしてもらいうれしかった」など、不安感の解消には一定の効果があったと考えている。</p>
肥後功一会長	<p>保護者を入れて約 9 割ということであれば大きい成果である。今年度全市一斉に</p>

<p>布野和弘委員</p>	<p>やるのであれば、保護者がその日は会社を休みやすいように、この日はこういうことがあるので、来年度子どもを就学させる保護者で、保育所に児童を預けている保護者は、仕事を休んで参加できるようアピールすること。それが市の一つの役割でないかと思う。ぜひ、そういう配慮を願う。</p> <p>全市一斉に実施するのは1回で良いと思うが、それ以外に2～3回、1回で済ませるのではなくて、1回では保護者も一部分しか見えないと思うので、今年度は無理かもしれないが、来年度以降、年間に2～3回の交流の場をもっていたきたい。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>質問の3点目の就学相談の後で保護者の同意がない場合に、どのように進めているかという質問についてはどうか。</p>
<p>児童生徒支援課</p>	<p>相談の申し込みがあった時点が始まりで、その後、就学指導委員会の判定などを伝える。生活の様子等がスムーズに早く伝わるということの意義は大きく、就学までに期間があるので、いろいろな段階で、それを保護者に伝え、できるだけ早くその趣旨を理解いただき、連携の同意を得て、繋いでいくという方向で働きかけをしていく。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>就学指導委員会で協議しながら同意が得られた事例と、そうでない事例、指導委員会で出された判定結果と違う就学先を選んだ事例など、様々な数字があると思うので、今後、必要があれば提示していただきたい。</p>
<p>保育幼稚園課</p>	<p>【資料2の説明】</p> <p>「量の見込み」は、計画期間である5年間における保育所・幼稚園等を利用したいとする数値を、アンケート調査をもとに算出したものである。「確保方策」は、5年間の確保予定の各施設の利用定員数を積み上げたものである。「実績」は、年度ごとの実際に確保できた利用定員数をあげることとしている。教育施設では「量の見込み」に比べて「確保方策」としての利用定員が上回っており、「確保方策」通りの「実績」をあげている。保育施設については、「量の見込み」に対して「確保方策」、「実績」とも若干下回っている。これについては、年度途中での入所等に対応するために認可保育所等で利用定員の弾力化を実施している関係がある。8月1日現在で保育所が5,523人、認定こども園が181人、計5,704人と、既に「量の見込み」を上回っている現状である。表では「実績」が「確保方策」より20人増となっている。これは認可外保育所2園が定数増したことによる。なお、認可保育所の4,910人という「確保方策」「実績」の数値については、12月完成予定の施設整備により定員が</p>

<p>肥後功一会長</p> <p>子ども政策課</p>	<p>5人増える予定で、それを含んだものである。</p> <p>プランの重要な部分であり、第4章で「量の見込み」を設定した部分の実績値がどうなっているかという説明であった。</p> <p>【資料3の説明】</p> <p>いきいき子どもプランの47ページから掲載する「地域子ども・子育て支援事業」の取組状況の報告である。年度途中であるため、ほとんどの項目が26年度実績の報告である。プランの計画期間は27年度からであるので、27年度実績が掲載された事業について説明する。</p> <p>「1. 利用者支援に関する事業」は、子育て支援事業等の情報提供や必要に応じ相談・助言等を行う事業であり、27年度においては未実施である。</p> <p>「3. 放課後児童健全育成事業」は、27年4月時点の利用人数は小学校1～3年生が1,670人、4～6年生が151人、施設数が44か所である。</p> <p>「7. 地域子育て支援拠点事業」は、「確保方策」のとおり10施設での実施を継続している。</p> <p>その他の事業は、今年度終了後に実績が確定するため、来年度の「子ども・子育て会議」において実績を報告し、プランの進捗等について意見をいただきたいと考える。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>資料2、資料3について質問があるか。</p>
<p>村田 實委員</p>	<p>「3. 放課後児童健全育成事業」で、27年度の数値が出ているが、特に4～6年生について尋ねたい。「量の見込み」と「実績」に大きな乖離があるが、これはどういふことでこのように乖離しているのか。</p> <p>児童クラブで4～6年生をどのように受け入れるかということは難しい問題であると思っており、この点が解決できずに結果的にこういう実績になったのか、それとも、はじめから需要が無かったのか、どのように考えているか。</p>
<p>市民活動支援課</p>	<p>4年生以上の児童の加入状況であるが、「量の見込み」については、本市の場合、今までも4年生以上の児童の受け入れが可能であれば受け入れを実施しており、その入会率等をもとに算出していたが、実際に加入した児童は151人ということで、前年から30人の増にとどまった。4年生以上になると放課後についてはスポーツ少年団の活動や塾等の通いがあるというようなこと、それから高学年になるにつれて1人で留守番も出来るというような年齢にもなってくるので、実際には少なかった</p>

<p>村田 實委員</p>	<p>たという結果になっている。個別のクラブでみると、既に定員に達して受け入れができないなどの個別の事情があったものと考えている。</p> <p>いずれにしても国の施策と地域の考え方に大きな乖離があると思う。4～6年生の高学年をとにかく受け入れてもらえば良いというのが国の考え方であって、1～3年生がいる中に4～6年生をどうやって受け入れるかということまで、国は考えてないと思う。市はそれを受けて実施したと思うが、この点を考えていただきたい。実際に1～3年生が60人いるところに4～6年生を4人受けるよう依頼されて困った。どう受け入れるかということまで、踏み込んで考えていないと思うので、ぜひ、今後、そこへ踏み込んで考えていただきたい。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>1人にしろ2人にしろ、高学年が入ることによって運営の仕方に影響を受ける。</p> <p>全国的に言うと、小学校4年生の壁という言い方もあるくらいで、3年生までは児童クラブがあるが、4年生からは無くなるということについて強いニーズがあるということを受けて国の事業が展開されている。必ずしも我々の地域がそういう実態ではないかもしれないという指摘を受けながら、単に子どもを引き受ける装置があれば良いということではなく、そこに子どもが生きて暮らしているの、どういう仕組みが一番良いのかということの研究してほしいということであった。</p>
<p>保育幼稚園課</p>	<p>(2) 平成28年度の認可保育所・認定こども園の定員について</p> <p>【資料4の説明】</p> <p>今年度の認可保育所・認定こども園の定員については、昨年度開催した会議での意見を踏まえ、全体で5,100人の定員を設定した。</p> <p>設定した定員について、県に対して報告及び協議をしたところ、県から、今後の定員設定について「恒常的に利用定員を超えた受け入れをしている保育所等については、利用実績に応じた、つまり、入所する児童数に応じた認可定員に変更した上で、利用定員の見直しを行う必要がある」との指摘を受けた。つまり、今後の定員設定にあたっては、定員内保育を基本として設定するよという趣旨の指摘であった。</p> <p>実際の入所状況は8ページの「参考資料1 入所者数の状況と定員との比較」に記載しており、市全体としては、9ページの合計欄にあるように、25年度から27年度にかけて、年々入所児童数が増えている。また、定員5,100人に対して、27年4月の入所児童数は5,447人となり、定員に対して347人の児童が超過して入所している状況である。</p> <p>さらに10・11ページの「参考資料2 平成28年度当初の新規受入児童数の試算」</p>

は、現在の定員のままで定員内保育を基本とした場合、来年度当初、どれだけの新規児童の受入が可能であるかを試算した表である。試算値ではあるが、新規受入数が「0」となっている施設については、現行定員のままでは年度当初に新規の受け入れが出来ないことを示している。

こうした状況の中、来年度の定員設定にあたっては、県からの指摘事項を各保育所・認定こども園に伝えた上で、定員変更に関する意向調査を実施した。

意向調査の結果は、4・5ページの「別表1 平成28年度 認可保育所等定員変更に関する意向調査結果一覧」をご覧いただきたい。私立認可保育所と認定こども園の計30施設から定員増をしたいとする意向が示された。市が設置している須佐保育所及び直江保育所についても、実際に入所する児童の数に応じて定員変更したいと考えており、須佐保育所は10名の減、直江保育所は10名の増をしたいと考える。公立と私立を合わせると、27年度5,100人の定員に対して415人の増員を行い、28年度の定員は5,515人にしたいと考えている。

定員改定にあたっての考え方については、1ページ目の「3. 定員改定にあたっての考え方」に記載している。

1点目としては、県からの指摘を受け、定員内保育を基本として定員設定をする必要がある。これには、保育所側の受け入れ体制や運営状況を考慮する必要があり、各施設においては、こうした状況を十分検討して増員の意向をいただいたと考えている。そして、定員内保育を基本とするものの、年度途中で定員の120%まで受け入れることができる「定員の弾力化」を活用して児童を受け入れるということについては、国においても、これまでどおり運用できるとされている。

続いて2点目に、28年度の定員を検討するにあたり、どれくらいの入所枠を用意すべきか試算した。試算結果は、年度当初に全体で5,500人程度は必要であると見込んでいる。この数字は、今回の定員改定の案としている5,515人とほぼ同数である。

3点目に、今回、定員改定の意向が示された保育所のうち、あすなる保育園と平田保育所については、いずれも200人定員の施設である。この200人という数字は、23年度に「出雲市認可保育所定員等検討委員会」での認可保育所の定員のあり方の検討により「1施設の定員の上限は200人が妥当」という答申があり、これまで200人という数字を定員の上限としてきた。しかしながら、核家族化の進行や共働き世帯の増加、就労形態の多様化などによって、年々保育所を利用したいというニーズが高くなっている状況がある。そして、あすなる保育園、平田保育所の状況をみると、新規の受入れも来年度当初難しいという状況で、両施設とも施設の受け入れ体制や運営状況を考慮しても、増員ができる状況にあるので、市としては、保育所を利用したいという保護者のニーズに応えるためにも、この増員が必要であると考

	<p>ている。</p> <p>ただし、今回、増員した場合でも、今後、保育所を利用したいというニーズが落ち着いた場合は、利用状況に応じて、定員を減員することは可能である。</p> <p>したがって、今後の保育所を利用したいというニーズに応じて、更なる定員の増員をするのか、あるいは減員をするのかということについては、今後の状況を見ながら定員の設定をしていくことが必要になってくると考えている。</p> <p>最後に、今回、定員変更の意向が示された施設について、受け入れ体制や施設の運営状況などの観点においては、定員増は可能と判断している。意見を伺いたい。</p>
肥後功一会長	<p>定員管理というのは総定員でやるということで、年齢ごとではないということか。</p>
保育幼稚園課	<p>年齢ごとの利用定員という考え方もあるが、定員全体としての認可定員という整理をしている。</p>
肥後功一会長	<p>年齢が低い子どもの定員が増員されるということになると保育士の数も補わないといけないということにもなるし、その点のバランスがとても難しく、保育の質に直接関わってくるところで、また、経営上でも大変なところである。総定員で管理しているということで理解したい。</p>
西 郁郎委員	<p>就学前の子どもを預かるということについて、保育所と幼稚園で何とかしないといけないわけで、市保育協議会としても、これに協力するよという話をしている。</p>
肥後功一会長	<p>恒常的に定員を上回るという状況について、120%の枠を使っていくということをやあまりしないで、定員を拡充するという方向が良いのではないかという考え方であり、それに積極的に取り組んでいきたいということであった。</p> <p>他に意見がないようである。来年度は 425 人の増員と 10 人の減員、合計で 415 人の増員という方向とのことであった。</p>
保育幼稚園課	<p>(3) 認可外保育所の今後について</p> <p>【資料 5 の説明】</p> <p>今年度から新制度が施行されたが、これに先立ち、国においては、待機児童解消加速化プランを策定し、待機児童の解消に向けた取組が強化されてきたところである。</p>

	<p>そして、今年度から新制度が施行されるにあたり、各自治体では 27 年度から 31 年度までの 5 年間で計画期間とする「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、計画期間中に待機児童の解消を図るとしたところである。</p> <p>本市においては表の太枠に記載した認可外保育所 3 施設について、認可保育所に準じた保育が行われているという状況を踏まえて、23 年度から国県の補助を受けて運営費補助を行っており、市のプランにおける「確保方策」の中にも、保育の受け皿の一つとして 3 施設を入れている。</p> <p>この運営費補助については、今年度から国の補助対象とする施設を 5 年以内に認可保育所又は認定こども園に移行する認可外保育所に限定されたところである。これを受けて、この 3 施設について、今後の意向を確認したところ、2 施設から新制度に移行したいとの意向を受けたところである。</p> <p>各施設からの具体的な意向については、「出雲南保育園」については、29 年度を目途に認可保育所に移行したいとの意向が示された。認可保育所に移行するためには法人化が必要である。</p> <p>「大社こどもランド保育園」については、当面は、新制度に移行するのではなく、現状のまま認可外保育所として運営したいとのことであった。</p> <p>「ひらた乳児保育所」からは、29 年度を目途に小規模保育事業に移行したいとの意向が示された。この小規模保育事業とは、定員 19 名以下の小規模な保育所のことであり、0 歳から 2 歳までの保育を行う施設である。3 歳以上の児童は、他の保育所や幼稚園等に通うことができるよう、連携施設を設定することが必要とされている。市が認可を行い、新制度の給付対象となるものである。</p> <p>今後の進め方としては、出雲南保育園については社会福祉法人が設立されれば、ひらた乳児保育所については連携施設の設定がなされれば、いずれも認可化に向けた協議を進めたいと考えている。</p>
肥後功一会長	<p>認可外保育所 6 施設のうち、事業所内保育所を除く 3 施設の状況とともに、運営費補助金のあり方、対象とするための条件が変わったので、それに伴ってどのようにされるかという説明であった。意見等があるか。</p>
委員	<p>(意見なし)</p>
保育幼稚園課	<p>(4) 市立幼稚園における預かり保育事業について</p> <p>【資料 6 の説明】</p> <p>今年度から施行されている新制度において、幼稚園における預かり保育は「一時預かり事業（幼稚園型）」ということで、急な用事や短期のパートタイム就労などで</p>

<p>肥後功一会長</p>	<p>子どもを預ける必要が生じた保護者を支援する子ども・子育て支援にかかるサービス事業の一つとして位置付けられた。市立幼稚園における預かり保育事業においては、プランにより、インクルーシブ教育を行う特別支援の拠点園としての今市幼稚園において、あわせて預かり保育を実施しているところである。これにより、市立幼稚園 27 園のうち、14 園で預かり保育を実施することとなった。うち 13 園は 7:30 から 18:30 までの預かりを、1 園は降園から 16:30 までの預かり保育を行っている。</p> <p>この預かり保育の今後のあり方を検討するため、今年の夏休みに、預かり保育に対する保護者ニーズの高さと、多くの園児が在園するという状況が安定して継続している塩冶幼稚園と四絡幼稚園の 2 園で、9:00 から 12:00 までの 3 時間に限定した預かり保育を試行した。利用料としては 1 回 300 円を徴収した。</p> <p>その結果は、1 回でも利用した保護者が全体の 49.5%、平均利用人数は 1 日あたり 18.9 人、利用した保護者の平均利用回数は 1 人あたり 8.7 回であった。また、夏休み終了後に保護者からアンケートをとったところ、保育時間については、「短かったのもっと長い時間利用したかった」という方が 65%あまり、利用した目的については、「子どもの生活リズムを整える」、「育児負担の軽減」、「就労」、「通院などの一時的利用」という順で回答いただいた。28 年度以降に本格実施した場合の利用意向については、7:30 から 8:30 までの朝の時間帯の利用希望は「利用しない」が 73%あまりで、「利用したい」が 26%あまりであった。平日降園以降の利用希望については「16:30 まで利用したい」が 57.6%、「18:30 まで利用したい」は 10%にとどまった。また、長期休業中の利用希望については、「3～5 時間利用したい」が 44%あまりと半数近くに上った。</p> <p>これを受けて、まず塩冶・四絡の 2 幼稚園については、園児数の動向も安定しているということを勘案し、来年度、16:30 までの預かり保育を実施してはどうかと考えている。</p> <p>また、川跡幼稚園であるが、同じ小学校区内にある鳶巣幼稚園が 18:30 までの預かり保育を実施しており、これを利用するために鳶巣地区外の川跡地区の子どもが入園し、今年度からその影響で保育室に不足を生じる状況となっている。川跡地区は子どもの数も多く、預かり保育に係る保護者ニーズも高いことから、28 年度から 18:30 までの預かり保育を実施してはどうかと考えている。</p> <p>29 年度以降については、預かり保育に対する需要や園児数の動向などを総合的に勘案して、今後の事業展開を検討していく考えである。</p> <p>詳細なデータも含んでの説明であったが、資料 6 の裏面は白紙であるので、できれば今のようなデータをきちんとまとめたうえで説明いただきたい。ニーズの高さが伺えたという記述では理由が見えにくい。</p>
---------------	--

<p>保育幼稚園課</p>	<p>また、この件はプランの 55 ページに書かれている「一時預かり事業」と理解したら良いか。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>55 ページに書かれている「一時預かり事業（幼稚園における在園児を対象とした預かり保育）」である。</p> <p>そうであるならば、資料のタイトルが違うのではないか。預かり保育事業のことではあるが、「事業」という言葉は付いていない。プラン 55 ページの「8. 一時預かり事業」にはカッコ書きで「幼稚園における在園児を対象とした預かり保育」と説明がついており、事業名としてあげるのであれば、プランにある事業名を使うべきである。</p> <p>また、29 年度以降の考え方の話があったが、それを踏まえればプランの 56 ページに書かれている「量の見込み」を修正するということか。プランの対応をきちんと押さえたうえで説明いただかないと、プランと無関係に事業を進めているのかと思われるとよくない。この体系の中のこの部分を、このように修正しながら進めるという説明の仕方をしていただきたい。その方が分かりやすい。</p> <p>2 つの提案があったが、意見があるか。</p>
<p>小村吉一委員</p>	<p>預かり保育の未実施園は何園あるのか。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>27 園中 14 園ということであるから、未実施は 13 園か。</p>
<p>保育幼稚園課</p>	<p>その通りである。</p>
<p>肥後功一会長</p>	<p>プランの 56 ページの【確保方策の設定の考え方】に、27～30 年度の実施予定園が 13 園とある。既に数字が違っており 14 園で実施しているとのこと。この数字との整合はどうか。</p> <p>事務局で確認し、その点の数字を詰めていただきたい。</p> <p>提案の趣旨は理解でき、委員の異議もないようであるので、この提案で良いかと思うが、提案の中身について、もう少しプランとの整合をとっていただきたい。</p> <p>最後に、全体を通して意見等ないか。</p>
<p>委員</p>	<p>(意見なし)</p>

事務局（子ども政策課）	<p>(5) その他</p> <p>委員の任期は出雲市子ども・子育て会議条例により 2 年と定められており、来る 10 月 9 日で任期が満了となる。所属団体の代表者変更等により交替された委員もあるが、2 年間の長きにわたり、「いきいきこどもプラン」の策定など、精力的に審議いただいたことに感謝申しあげる。</p> <p>次期の子ども・子育て会議については、関係先とも相談しながら市で検討を進め、新たに委員構成を考えていきたい。</p>
肥後功一会長	<p>2 年間お付き合いいただいた方もたくさんあり、本日初めての方もいるが、協力いただき感謝する。</p>
事務局（子ども政策課）	<p>本日の会議録は、会長の確認を受けたうえで委員へ配付するとともに、市ホームページで公開する。</p>
子育て調整監	<p>4 閉会</p> <p>プランが多岐にわたる内容であり、その多岐にわたる内容について多くの意見をいただいたことに厚くお礼申しあげる。</p> <p>報告であるが、本日提案した「平成 28 年度の認可保育所・認定こども園の定員について」、「認可外保育所の今後について」、「市立幼稚園の預かり保育について」は、この後、今回の意見を踏まえて市で内容決定し、開会中の市議会に報告したいと考えている。</p> <p>会議の冒頭で、会長からプランに魂を入れるのはこの会議の役割だとあいさつをいただいた。第 1 期の委員による会議が終わるが、次期委員による会議に至るまでに、本日いただいた意見を一つの魂ととらえ、全てとはいかないかもしれないが、いただいた意見を踏まえて来年度の予算編成に向かいたいと考えている。次期の子ども・子育て会議委員をお願いすることもあると思うが、今後とも、本市の子ども・子育てへの支援、協力について、よろしくお願ひしたい。</p> <p>最後に、会長、委員の皆様方に改めて感謝申しあげて閉会とする。</p>